

令和6年度事業報告

自 令和6年10月1日 至 令和7年9月30日

I. 展覧会

1. 第53回「日本の書展」直轄展

53回直轄4展の出品者総数は、各書道団体において出品者数の増加に努めていただいた結果、3,863名となり、前回より51名増となった（出品者総数の推移 52回展3,812名、51回展3,669名、50回展3,648名、49回展3,555名、48回展3,665名、47回展3,678名、46回展3,584名）。

入場者総数は17,104名となり、昨年に続き17,000名超となった。内訳は、関西展1,543名（52回展1,866名、51回展1,443名、50回展1,702名、49回展開催中止、48回展開催中止、47回展1,972名）、九州展2,667名（52回展2,462名、51回展2,264名、50回展1,822名、49回展開催中止、48回展1,425名、47回展1,500名）、中部展2,879名（52回展2,845名、51回展2,501名、50回展2,767名、49回展1,669名、48回展開催中止、47回展2,853名）、東京展10,015名（52回展10,262名、51回展9,868名、50回展8,363名、49回展4,361名、48回展4,136名、47回展8,597名）。

開催披露祝賀会の出席者数も、来賓・出品書家・関係者の全体で、関西展439名、九州展160名、中部展382名、東京展671名となっており、祝賀会出席者総数1,652名で、昨年の1,535名を大幅に超えた。コロナ禍も緩和したことから、4展とも着席ブッフェ形式で執り行った。

例年行っている出品者への贈呈として、図録1冊（現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱作品と全出品者名簿を掲載）および出品者本人の作品プロマイド2枚ずつを送付した。出品者の図録追加注文は118冊（236,000円）、プロマイド追加注文は815枚（326,000円）、出品者による図録・プロマイドの総売り上げは56万2千円となった。

(1) 関西展

会期	令和7年5月6日（火・祝）～5月8日（木）
会場	マイドームおおさか（1、2階展示ホール A～D）
主催	（公財）全国書美術振興会 産経新聞社
後援	文化庁 大阪府
協賛	（公社）日本書芸院
開催披露祝賀会	令和7年5月7日（水）17：30～19：00 リーガロイヤルホテル 3階 「光琳の間」 出席者 439名（前回488名）
ギャラリートーク	令和7年5月6日（火・祝）14：00～15：00 マイドームおおさか（1階展示ホール） 講師 松村博峰評議員

関西展は、巨匠19点、代表108点、委嘱41点、招待466点、秀抜選582点、合計1,216点、会期中の入場者数は1,543名で、会期に平日が含まれたために前回より約17%減となった。（参考：前回52回展 出品総数1,191点 入場者数1,866名）

5月7日（水）の17時30分から、リーガロイヤルホテル3階「光琳の間」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・関係者合わせて439名の出席があった。

日本書芸院・読売新聞社主催、日本書道文化協会特別協力の2025年日本国際博覧会「未来へつなぐ日本の書～空・海・時を超えて～」が5月7日（水）～11日（日）に万博会場EXPOメッセ「WASSSE」で開催され、それに「日本の書展」関西展の会期を重ねるため、例年よりも数日間会期を後ろに移動し、万博オープニング日の夕刻に開催披露祝賀会を開催した。

祝賀会では、高木聖雨代表理事・理事長ならびに田中壮一郎代表理事・会長の主催者挨拶に始まり、産経新聞社取締役会長・産経国際書会会長 飯塚浩彦氏の共催者挨拶、文化庁参事官 児玉大輔氏の来賓祝辞、文化功労者の黒田賢一常務理事による書家代表挨拶へと続き、主な来賓と現代書壇巨匠作家の紹介の後、日本芸術院会員の土橋靖子常務理事の乾杯発声で祝宴に入った。19時に真神巍堂顧問の閉会挨拶で終了した。

(2) 九州展

会期 令和7年5月27日（火）～6月1日（日）
会場 第1会場 福岡市美術館（2階ギャラリー A～F）
第2会場 福岡県立美術館（3階展示室 1～4号室）
主催 （公財）全国書美術振興会 西日本新聞社
後援 文化庁 福岡県
開催披露祝賀会 令和7年5月28日（水）12：30～14：00
西鉄グランドホテル 2階 「プレジール」
出席者 160名（前回129名）
ギャラリートーク 令和7年5月29日（木）14：00～15：00
福岡市美術館（2階ギャラリー）
講師 吉田成美評議員

九州展は、巨匠19点、代表108点、委嘱8点、招待144点、秀抜選227点、合計506点、会期中の入場者数は2,667名で前回より約8%増となった。

（参考：前回52回展 出品総数494点、入場者数2,462名）

5月28日（水）の12時30分から、西鉄グランドホテル2階「プレジール」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・関係者合わせて160名の出席があった。

祝賀会では、田中壯一郎代表理事・会長の主催者挨拶に始まり、西日本新聞社企画事業室長安武弘子氏の共催者挨拶、太宰府天満宮宮司 西高辻信宏氏の来賓祝辞、来賓・全国書美術振興会役員・代表および委嘱作家の紹介の後、松清秀仙評議員の乾杯発声で祝宴に入った。14時に野田正行評議員の閉会挨拶で終了した。

(3) 中部展

会期 令和7年6月4日（水）～6月8日（日）
会場 愛知県美術館ギャラリー（愛知芸術文化センター8階 A～J）
主催 （公財）全国書美術振興会 中日新聞社
後援 文化庁 愛知県 東海テレビ放送
協賛 （公社）中部日本書道会
開催披露祝賀会 令和7年6月4日（水）18：00～19：45
名古屋東急ホテル 3階 「ヴェルサイユ」
出席者 382名（前回322名）
ギャラリートーク 令和7年6月5日（木）14：00～15：00
愛知県美術館ギャラリー（愛知芸術文化センター8階）
講師 近藤浩乎現代書壇代表作家

中部展の出品数は、巨匠19点、代表108点、委嘱18点、招待203点、秀抜選424点、合計772点、会期中の入場者数は2,879名となり、前回より約1%増となった。

（参考：前回52回展 出品総数758点 入場者数2,845名）

中日新聞社の紙面協力、東海テレビ放送の放映協力、中部日本書道会の協賛を得ている。

5月28日（火）の18時から、名古屋東急ホテル3階「ヴェルサイユ」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・関係者合わせて382名の出席があった。

祝賀会では、高木聖雨代表理事・理事長ならびに田中壯一郎代表理事・会長の主催者挨拶に始まり、中日新聞社事業局長池田千晶氏の共催者挨拶、中部日本書道会名誉会長の神田真秋氏の来賓祝辞、鬼頭翔雲評議員の書家代表挨拶へと続き、来賓、全国書美術振興会役員、巨匠・代表・委嘱作家の紹介の後、東海テレビ放送株式会社 取締役事業局長 吉田明弘氏の乾杯発声で祝宴に入った。19時45分に伊藤仙游評議員の閉会挨拶で終了した。

(4) 東京展

会期 令和7年6月12日（木）～6月22日（日） 6月17日（火）は休館日
会場 国立新美術館（展示室1A・1B・1C・1D）
主催 （公財）全国書美術振興会 共同通信社
後援 文化庁

開催披露祝賀会 令和7年6月15日（日）12：00～13：40
 グランドプリンスホテル新高輪 地下1階 「飛天」
 出席者 671名（前回596名）

ギャラリートーク ①令和7年6月14日（土）14：00～15：00
 国立新美術館 展示室
 講師 岩井秀樹東京展委嘱作家
 ②令和7年6月21日（土）14：00～15：00
 国立新美術館 展示室
 講師 赤平泰処現代書壇代表作家

東京展の出品数は、巨匠19点、代表108点、委嘱48点、招待701点、秀抜選874点、東京展合計1,750点、他展の委嘱（関西展委嘱41点・九州展委嘱8点・中部展委嘱18点）も加わり総展示数1,817点、会期中の入場者数は10,015名で、昨年に続き1万人を超えた。（参考：前回52回展 出品総数1,812点、入場者数10,262名）

6月15日（日）の12時から、グランドプリンスホテル新高輪地下1階「飛天」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・関係者合わせて671名の出席があった。主たる来賓・書家代表者・共催代表者はステージ上に着席（登壇者は次の通り）。

主催者 全国書美術振興会：高木聖雨代表理事・理事長、田中壮一郎代表理事・会長
 共催者 株式会社共同通信社：三土正司代表取締役社長
 来賓 あべ俊子文部科学大臣
 河村建夫書道国会議員連盟名誉会長、塙谷立書道国会議員連盟名誉会長
 書家 井茂圭洞名誉顧問（文化勲章受章者）、黒田賢一常務理事（文化功労者）
 高木理事長および田中壮一郎会長の主催者挨拶に始まり、共同通信社 三土代表取締役社長の共催者挨拶、あべ俊子文部科学大臣および塙谷立書道国会議員連盟名誉会長の来賓祝辞、黒田賢一常務理事の書家代表挨拶へと続き、登壇者および本日出席の主な来賓、全国書美術振興会役員、巨匠・代表作家の紹介の後、河村書道国会議員連盟名誉会長の発声で乾杯を行い、祝宴に入った。
 13時40分に日本芸術院会員の星弘道名誉顧問の閉会挨拶で終了した。

2. 第52回および第53回「日本の書展」巡回展

会期 第52回巡回展 令和6年9月～令和7年4月
 第53回巡回展 令和7年8月～令和8年4月
 会場 52回展は地方8カ所を開催。53回展も地方8カ所の開催を予定。
 主催 （公財）全国書美術振興会 共同通信社 各地元新聞社
 後援 文化庁

現代書壇巨匠と現代書壇代表巡回作品（第52回展127点、第53回展127点）については、直轄展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年間をかけて、地方を巡回する。

第52回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地	地元主催新聞社	会場	会期	地元作品数	入場者数
1	島根	松江市	山陰中央新報社	島根県立美術館	6.8.22～8.26	200
2	富山	富山市	北日本新聞社	富山県民会館	6.9.14～9.16	139
3	青森	青森市	東奥日報社	New's TO-O ビル3階催事場	6.9.20～9.23	263
4	広島	広島市	中国新聞企画サービス	広島県立美術館県民ギャラリー	6.10.1～10.6	481
5	岡山	岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店6階葦川会館	6.10.16～10.21	399
6	長野	長野市	信濃毎日新聞社	長野県立美術館	7.3.7～3.10	241
7	奈良	奈良市	奈良新聞社	奈良県コンベンションセンター	7.3.26～3.30	143
8	茨城	水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	7.4.12～4.17	298

※白部分が、今年度（令和6年度）事業

第53回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地	地元主催新聞社	会 場	会 期	地元作品数	入場者数
1	鳥取	米子市	山陰中央新報社	米子市美術館	7.8.29～9.1	200
2	富山	富山市	北日本新聞社	富山県民会館	7.9.26～9.28	135
3	広島	広島市	中国新聞企画サービス	広島県立美術館県民ギャラリー	7.10.7～10.12	456
4	岡山	岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階 葦川会館	7.10.15～10.20	379
5	青森	青森市	東奥日報社	New's TO-Oビル3階催事場	7.10.31～11.3	240
6	奈良	奈良市	奈良新聞社	奈良県コンベンションセンター	8.2.23～2.27	—
7	長野	長野市	信濃毎日新聞社	長野県立美術館	8.3.6～3.9	—
8	茨城	水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	8.4.11～4.13	—

※白部分が、今年度（令和6年度）事業

3. 第53回「日本の書展」東京展 公募臨書

会 期 令和7年6月12日（木）～6月22日（日） 6月17日（火）は休館日

前期展示 令和7年6月12日（木）～6月16日（月）の5日間

後期展示 令和7年6月18日（水）～6月22日（日）の5日間

会 場 国立新美術館（展示室1Dのうち、52室・53室・54室の一部を使用）

主 催 （公財）全国書美術振興会 共同通信社

後 援 文化庁

2012（平成24）年の第40回から東京展に新設・併催された公募臨書も今回14回目となる。出品点数は1,162点、前回の1,163点より1点減ったが、前回に続き、千点超えの応募となった。

令和6年12月5日に、国立新美術館審査室で審査委員8名による入選・落選の審査鑑別を行った。展示室2室分の壁長を念頭に置いて審査を行い、最終的に入選数は472点、入選率40.6%となった。内訳は下表参照。

出品整理料は前回同様2,000円。入選作品は表具をして国立新美術館の52室・53室・54室の一部に展示、壁面展示は2段掛けとした。展示後、入選者には表装作品と共に入選證を送った。

第53回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <展示方法・展示期間別内訳>

	壁面展示			計
	たて	よこ	篆刻	
前期展示	170	52	14	236
後期展示	170	52	14	236
入選数合計	340	104	28	472
入選率	40.3%	41.6%	40.6%	40.6%

第53回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <作品ジャンル別内訳>

	漢 字		か な		篆 刻
	たて	よこ	たて	よこ	
入選数	330	17	10	87	28
	347		97		
入選率	40.4%		41.6%		40.6%
入選数合計	472				

II. 「子どもゆめ基金」助成子ども体験プログラム（ワークショップ）

筆もじにトライ！2025

サブタイトル オリジナル筆もじ飾りを作ろう

日 時 令和7年8月15日（金）

Aコース 11：00～12：30 体験者数46名（子ども34名、保護者12名）

Bコース 14：30～16：00 体験者数36名（子ども23名、保護者13名）

令和7年8月16日（土）

Cコース 11：00～12：30 体験者数43名（子ども26名、保護者17名）

Dコース 14：30～16：00 体験者数43名（子ども26名、保護者17名）

令和7年8月17日（日）

Eコース 10：00～11：30 体験者数50名（子ども35名、保護者15名）

Fコース 13：30～15：00 体験者数21名（子ども13名、保護者8名）

場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター

スポーツ棟地下1階「第3体育室」

参加費・材料費 無料

助 成 独立行政法人国立青少年教育振興機構・子どもゆめ基金より959,502円の助成
対 象 3歳～小学校4年生までの子ども（保護者同伴）

参加する子どもの保護者

定 員 300名（各コース50名×6コース）

指導者 阿久津才慧氏、金子夢生氏、小西北翔氏、小林史青氏、芹澤翔華氏

田中紫水氏、角田翠皎氏、中村喬華氏、畠田心珠氏、藤井一敦氏

堀一惜氏、本田英之氏、巻山壘偉氏、松浦龍坡氏、宮島翠雨氏

令和7年4月から振興会ホームページへの公開、5月下旬から体験場所近郊や沿線上への幼稚園・保育園・小学校・児童館等子ども施設、図書館へのチラシ配布、6月から「日本の書展」東京展会場内でのチラシ配布および子ども体験ウェブサイトへのアップを行い、体験プログラムの募集を呼び掛け、7月1日からホームページで参加者の募集を開始した。前回前々回と、子どもと保護者が同じ体験を共有することが好評であったために、今回も子どもと合わせて保護者の募集も行った。

前回同様、今回も「書道」に欠かせない表具に焦点を当て、千代紙などの和紙を手でちぎって台紙に飾り、その台紙に筆文字を書くプログラムとした。

体験者総数 239名

体験者内訳 3歳 10名 4歳 13名 5歳 30名 6歳 9名

小学校1年生（6・7歳） 34名 小学校2年生（7・8歳） 23名

小学校3年生（8・9歳） 28名 小学校4年生（9・10歳） 10名

保護者 82名

事前申し込みの時点では満席予約のコースもあったが、当日のキャンセルにより空いた席を利用して、申し込みのなかった保護者にも体験に参加してもらった。

今回、例年の体験手順を大幅に変更し、揮毫台紙への「飾り付け」をプログラムの最初に持ってきて、体験時間を95分に拡大したが、子どもたちは集中が途切れることなく、最後までゅったりとイベントを楽しんでいた。保護者も学校教育での書写・書道の授業を思い出しながら、熱心に取り組んでいた。子どもと保護者が、同じ体験を通して会話をしたり、競争したり、知恵を出し合ったり、協力し合ったりしながら物作りを完成させる過程は、大変充実した時間となった。

III. 書美術の国際交流

高木聖雨理事長、片山純一事務局長が令和7年9月に中国北京を訪問した際、9月24日に在中国日本大使館を表敬訪問した。金杉憲治大使、園田庸公使らと面談し、全国書美術振興会や日本書道文化協会の活動、「書道」のユネスコ無形文化遺産登録に係る活動などを報告した。

また、在外公館において書作品を広く紹介することにより日中交流促進の一助とするため、次の書額作品2点を全国書美術振興会理事長として寄贈した。

①高木聖鶴作品

制作年：2010年 題名：西行句 表装形式：額装 作品サイズ：縦42cm×横32cm

②高木聖雨作品

制作年：2025年 題名：豊樂 表装形式：額装 作品サイズ：縦50cm×横85cm

IV. 日本書道文化協会

活動報告は別紙にて

V. 日本書道ユネスコ登録推進協議会

活動報告は別紙にて

VI. 書写・書道教育推進協議会

活動報告は別紙にて

VII. 機関誌および書美術に関する出版物刊行ほか

1. 展覧会作品集等の制作

(1) 第53回「日本の書展」直轄展

①図録 4, 500部 (前回52回展は4, 440部)

現代書壇巨匠・現代書壇代表・全展委嘱作品図版をオールカラー刷りで掲載。

巻末には、全展招待・秀抜選作家を含む全出品者名簿を掲載。

出品者には1冊ずつ贈呈。

②出品者本人の作品プロマイド (印刷) 8, 068枚 (前回52回展は7, 948枚)

展覧会名・姓号入り 2Lサイズ カラー

各出品者には、出品者本人のプロマイドを2枚ずつ贈呈。

(出品者3, 844名×2枚ずつ、現代書壇巨匠19名のみ×20枚ずつ)

③出品者名簿 直轄4展合計 50, 990枚

関西展 13, 460枚

中部展 9, 730枚

東京展 21, 800枚

九州展 6, 000枚

④案内はがき 105, 000枚

⑤ポスター 420枚

⑥外国人向け展覧会概要リーフレット 250枚

(2) 第53回「日本の書展」巡回展

図録 (直轄4展と同図録) 650部 (前回52回展は650部)

(3) 第53回「日本の書展」公募臨書

①入選者名簿 2, 300枚

②入選證 580枚

(4) 第54回「日本の書展」公募臨書

出品要項 11, 400枚

2. 「子どもゆめ基金」助成子ども体験プログラム 「筆もじにトライ！2025」の制作

募集チラシ (A4) 16, 000枚

募集ポスター (A3) 400枚

3. 機関誌「書美術」第42号

4, 450部 令和7年2月1日に発行

4. ホームページの更新

VIII. 書美術功労者の顕彰

文化功労者に顕彰された高木聖雨理事長および日本芸術院賞を受賞された日比野博鳳氏の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

以上